



Link “新風”

第 23 号
(通算 第 116号)



いよいよ37期も後半に突入し、待望の新工場が遂に完成しました。
全社的に忙しい時期ではありますが、暖かい春を向かえ、心機一転、がんばって行きましょう！！

弥生三月、春は曙・・・。

いよいよ第37期も下期に入りました。あっという間に・・・とは云いたくない心境です。時間は早くもなく遅くもなく淡々と時を刻んでいるわけであっという間と感ずるのは、刻む時間に歩調を合わせられない、時間を先取りしていない、やり残したことが多すぎるのか・・・こんなことを考えてしまうこの頃です。でも、気持ちはいつも前向きですよ。

【下期に向い】

全社経営基本目標の変更はありませんが、その目標達成のための組織変更や配置転換はあります。厳しい数値目標ではありますが、意識を変え、やり方を変え、明日に繋がる成果を出していくチャンスであります。云われたことを云われたように黙々とこなしていく“作業”ではなく、目標を持って知恵や能力を活用し、価値を創造する“仕事”をするには、Plan Do Check Actを回していかなければなりません。いつもくどくど云うようだが、自ら人財になりうる基本だと確信している。

【待望の新工場完成】

改正建築基準法が施工されたのが昨年6月20日。この期日前に是非とも申請し許可を得たい願いが叶い、8月23日に起工式を執り行った新工場建設が2月29日無事竣工式を迎えることができました。設計を前田正昭建築設計事務所殿に建築工事を前田建設工業殿にお願いし進めてまいりました。土壌の掘り起こし工程では、予想をはるかに上回る廃棄物(オートバイ、自転車、コンクリート杭など)が行く手を阻み厳しい工程となりましたが、おかげさまで無事故、無災害でかつ近隣の方々に苦情を与えずに完成したことはありがたいことと感謝しております。

平成10年4月、小諏訪に第二工場を建設し活用してまいりましたが、鉄道高架化に伴う工場前の道路拡張のため移転を余儀なくされました。この移転先として、平成14年に購入した本社工場北隣の土地が決まったわけです。本社工場と地続きの土地が手に入り、建設がままならない市街化調整区域のその土地に工場建設が可能になった幸運を私共は大事にして、会社継続・発展のために力を合わせていかなければと改めて決意しています。

【中川球童老師遷化さる】

去る12月26日、三島の龍澤寺に師家・球童老師を林所長と共に訪ね、竣工式へのご来駕をお願いしたところ快諾をいただいていた。とてもお元気で冗談を交えてお話されていたのに、12月29日遷化の報に接し、全く信じられませんでした。

球童老師は、昭和43年にイスラエルにわたり13年間、その後ニューヨークに転錫してソーホー禅堂を開単されるなど外国人への布教に尽くされました。平成2年、鈴木宗忠老師の遷化により龍澤寺僧師家に就任され、以来、故赤堀吉弥会長は老師を敬愛し親交を深め、平成6年2月に本社工場を竣工した折にもお越し願い、安全と繁栄を祈願してくださいました。その頃から、私は親しくお話をさせていただいた記憶があります。とても懐かしく思い出されます。

そういえば、毎日の読経のなかで当社の社員の健康と会社の繁栄をお祈りして下さったと聞いております。本当にご支援をありがとうございました。合掌

【来客数】

当社に来られる方々の人数はいったいどのくらいだと思いますか？ 第37期上期(9月～2月)をみてみましょう。

- 1) 来客予定連絡書に記載された人数のうち、顧客・見込み客の方々が252名、外注・仕入先の方々が100名
- 2) 1階の受付の名簿に署名された方々が440名
- 3) 上記の方々以外の方が、100名

合計900名ほどになります。稼動日数が127日ですから、1日あたり7名となります。

あなたは、お一人お一人に感動、感激をさしあげていますか？

【尊い命を守ろう】

我々は、安全衛生委員会を設置し、当社で働く皆さんの安全と健康を確保すべく活動していますが、まだまだ個人の経験と能力に依存しています。今後は、組織的・体系的な活動をしていくために、当社なりの労働安全衛生マネジメントシステムを早く構築したいと考えています。“ゼロ災害から危険ゼロ”を目指し、リスクを見積り、評価し低減をはかっていくリスクアセスメントを含めていきます。

安全を軽んじないで、先ず日常誰でもできる“声掛け”を徹底して実行していきましょう。“自分の命は自分で守る。他人の命も自分が守る” どうぞ、ご安全に！

社長 赤堀肇紀



新工場竣工式 - 2月29日 -